

## 第2学年 A組 保健体育科学習指導案

場 所 今津小学校体育館  
授業者 教諭 山崎 竜太郎

### 1 単元名 傷害の防止 ～自然災害に備えて～ (学研)

### 2 単元について

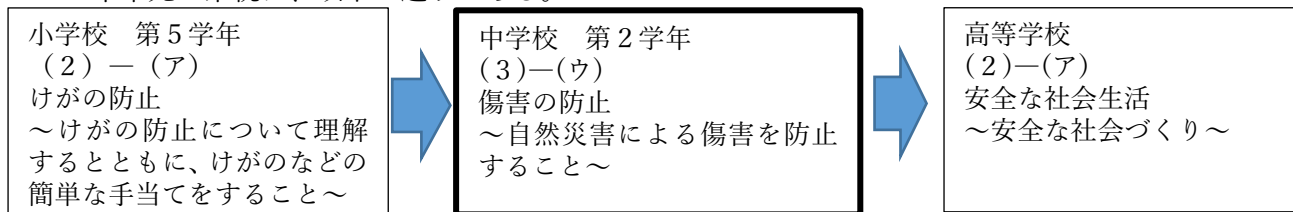
#### (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領保健分野目標(1)「個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする」を受け、内容(3)傷害の防止ア-(ウ)「自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。」を学習する単元である。自然災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで自然災害による傷害の多くは防止できる。また、迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができることなどの知識、及び応急手当の技能と傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

自然災害は、地震、風水害などいつでもどこでも発生する可能性が高く、それに伴って起きる土砂崩れや津波などの二次災害で傷害が発生することも十分考えられる。平成23年3月に起きた東日本大震災、平成28年4月に起きた熊本地震、平成29年7月に起きた九州北部豪雨など自然災害は広い範囲に甚大な被害をもたらした。本市でも度々大雨洪水による道路の冠水や台風による被害などが発生しており、災害と無縁の地ではない。災害発生時には、身を守る行動をとれること、二次災害の防止には日頃から備えておくことの重要性を理解し実践していくことが大切である。この単元を通して、いざという時に自ら考え、行動に移すことができる力を身につけておく必要がある。

#### (2) 系統性(保健)

本単元の系統は、以下の通りである。



#### (3) 生徒の実態 ( 男子13人 女子11人 計24人 )

本学級は、全体的に明るく元気で、物事を自分で考え行動することのできる生徒が多い。学習に対する意欲も高く、積極的に自分の考えを發表することができ、活発な意見交換ができる。疑問に思ったことがあると教師や友達に尋ねるなど課題を解決しようとする生徒が多い。しかし、授業中の発言回数には個人差が見られ、ある一部の生徒の意見がクラスの意見となってしまうことがある。個別の支援を要する生徒があり、ワークの記入など机間巡視をしながら声かけを行い、授業内を確認しながら授業を進める必要がある。

事前に行った保健の授業や自然災害についてのアンケート結果は次の通りである。(23人/24人)

| アンケート項目                       | 生徒回答                 | 生徒意見  |
|-------------------------------|----------------------|---|
| ①保健の授業は好きですか。                 | はい (19人)<br>いいえ (4人) | 改善策：班活動を増やしてほしい。友達と話し合いたい。教科書に載っていることはよく分かるが、それ以外のことも知りたい。もっと視覚資料などを使ってほしい。体験的な学習を増やしてほしい。                            |
| ②授業で学んだとことを生活の中で生かしていきたいですか。  | はい (21人)<br>いいえ (2人) | はい：生活に生かされることを学んでいる。自分の生活がより良いものになっていると感じる。ケガの処置など生かせることが多いと思う。いろんなことを関心を持って学ぶことができているので生かしたい。<br>いいえ：その場にならないと分からない。 |
| ③周囲の人と協力して様々なことに取り組むことは好きですか。 | はい (19人)<br>いいえ (4人) | はい：みんなと協力すると楽しい。話し合いが好き。達成感を味わうことができる。信頼を深めたい。<br>いいえ：一人で考える方が得意。   |

|   |                      |   |
|---|----------------------|---|
| ④ストレスを感じたときに自分なりの対処法を持っていますか。           | はい (22人)<br>いいえ (1人) | はい…音楽を聴く(7人)、ゲーム(5人)、声を出す(4人)、運動(3人)、カラオケ(1人)、相談(1人)、好きな物を食べる(1人)<br>いいえ…何をやっていいか分からない。                                       |
| ⑤防災教育は必要だと思いますか。                        | はい (23人)<br>いいえ (0人) | 自然災害が発生した時など身を守ることができる。万が一の時しっかり行動できるようにしておく必要があると感じる。いつ災害が起きるか分からないので備えておく必要があると思う。人の役に立ちたい。今学んでいることがとても大切なことだと感じている。        |
| ⑥普段から学校や家庭で、自然災害に備えていることはありますか。         | はい (16人)<br>いいえ (7人) | はい：避難場所の確認、防災リュック準備、食料の備蓄、連絡先の確認、家族で災害のことを話している。<br>いいえ：まだ準備が十分でないと感じる。必要性を感じるが実際動けていない。家族で話す時間の確保が難しい。学校ではできているが、家庭ではできていない。 |
| ⑦災害が発生した時に自分の身を守る避難行動が取れますか。            | はい (19人)<br>いいえ (4人) | はい：今までの学んだことを生かしていきたい。ハザードマップなどを授業で活用したので自信がある。避難訓練でもたくさんのことを学んだから。<br>いいえ：まだ、災害を経験していないから不安。実際パニックになったら行動できるか分からない。          |
| ⑧家庭で災害が起きたときのことについて話していますか。             | はい (19人)<br>いいえ (4人) | はい：連絡の取り方、避難場所等について話している。家族も知っておいてほしいと思うから。<br>いいえ：家族の時間がない。家族との話が苦手。   |
| ⑨災害発生時に自分や周囲の人の命を守るための行動をとれるようになりたいですか。 | はい (22人)<br>いいえ (1人) | はい：家族の命を守りたい。人の命を守りたい。人の役に立ちたい。中学生だからこそできることを積極的にやりたい。自分だけが助かるでは駄目だと思う。<br>いいえ：自分のことで精一杯になると思う。                               |

このアンケート結果より、保健の授業を好きと答える生徒の割合は高い。視覚資料の活用、体験的な活動を増やす。班活動や話し合い活動を行うことで生徒の意欲は高まると考えられる。ストレスへの対処法については、震災後の避難所等での生活が続いたりすると多くの生徒がストレスを抱えると考えられるが、現在行っているようなストレス対処法は実施が困難である。手軽に行えるような深呼吸などのストレス発散法を知っておく必要がある。防災教育を必要だと思っている生徒は全員で、防災意識も高いが、自然災害への備えは個人差がある。家庭で災害について話題になっている家庭の方が自然災害に備えている割合が高かった。学習したことを各家庭に波及し、家庭においても自然災害に備えことができるような授業を実践していくことは大変意義がある。災害発生時、他の人の役に立ちたいと思っている生徒も多くいる。自然災害に対する正しい知識、避難方法や日常の具体的な備えについて学ぶことで実際の場面で生かすことができ、生徒の防災意識を高め、興味関心を持って授業に臨むことができると考える。

#### (4) 指導に当たって

- ①「まつしま」学習のカードを示すことで生徒が今何をすべき時なのか視覚的に分かるようにする。
- ②授業の流れをホワイトボードに書いて示し、生徒が見通しを持って授業に参加できるようにする。
- ③呼吸法を活用したストレス対処法を継続的に指導することで、生徒が手軽にストレスに対処することができるようにする。
- ④災害についての視覚資料を準備し、他人事ではなく自分の事として授業で考えることができるようにする。その際は事前にアンケートを取り、生徒の心理面に配慮する。(2-A 生徒該当者無し)
- ⑤通学路や地域の写真を活用し、生徒が実際生活の場面で考えることができるようにする。
- ⑥実際の津波などを体験できる場面を設定し、避難することの大切さを実感できるようにする。
- ⑦班活動を取り入れ、課題を共有しよりよい課題解決方法を探すことができるようにする。その際、ホワイトボード等を活用し、それぞれの班の意見を全体でも共有できるようにする。
- ⑧ワークシートに保護者確認欄を設け、保護者も今回学んだことを共有できるようにする。

#### (5) 人権が尊重される授業作りの視点

災害によって多くの方々が命を落としたり、傷ついたりされたことに触れる。どうしたら命を守ることができるのか考え、人の命の尊さ、助け合うことの大切さを理解する。また、課題に共に取り組むために話し合い活動を行う。お互いの考えを伝えあい、認め合う場を設定することで、互いの意見を尊重する態度を育てる。

(6) 本校研究主題との関連

本校研究主題

根拠をもとに正しく判断し、主体的に行動する生徒の育成

～ つながり大切に「まつしま学習」の実践を通して ～

本單元における研究主題および仮説との関わりは、以下の通りである。

ア 授業における防災教育の視点

【仮説1】教科において、防災教育の視点を踏まえた授業実践を続けることで防災意識が高まり、生徒がより正しい知識や判断力、主体的に行動する力を身に付けることができるであろう。

- 日本でおこる自然災害について、正しい知識を身につけさせる。  
これまで日本で起きた自然災害について視覚資料等で説明し、事例をもとに考えさせる。また、体験的な学習を取り入れて、実感しながら正しい知識を身につけさせることができるようにする。
  - 災害時における対策を考えることで、判断力を身につけさせる。  
危険予想や身を守る行動について考え、災害が発生した時に対応できる力を育てる。また、日常生活の中での備えについて考え、日頃から防災意識を持って生活できるようにする。学校だけでなく、家庭にもこの活動を広げていく。
  - 発表活動を通じて、主体的に行動する力を身につけさせる。  
自分の考え、班での話し合いの結果などを発表する時間を設け、他人事にではなく、自分のこととして考える事ができるようにする。また、実際に災害に遭いながらも地域貢献した生徒のことを紹介するなどして、中学生としてとるべき行動について考えることができるようにする。
- イ つながり大切に「まつしま学習」の実践
- 授業において「考動」の場を設定し、個人でじっくりと考え、班や全体発表の場で自らの考えを表現し、情報を共有する時間を確保する。
  - 生徒が根拠をもとに思考し自らの考えを表現できるような資料を準備する。
  - 生徒が根拠をもとに思考し自らの考えを表現するために必要な発問や言葉かけを行う。
  - 生徒が過去に学んできたことを想起させることができるような発問や言葉かけを行う。

3 単元の目標

| 単元の目標           | 内容  |
|-----------------|---|
| 健康・安全への関心・意欲・態度 | 傷害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。  |
| 健康・安全についての思考・判断 | 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。                       |
| 健康・安全についての知識・理解 | 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらとの生活との関わりを理解することができるようにする。 |

4 単元の評価規準

| 健康・安全への関心・意欲・態度                      | 健康・安全についての思考・判断   | 健康・安全についての知識・理解  |
|--------------------------------------|---|--|
| 傷害の防止について、関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 | 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。 | 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらとの生活との関わりを理解している。 |

5 学習活動における評価規準

| 健康・安全への関心・意欲・態度  | 健康・安全についての思考・判断   | 健康・安全についての知識・理解   |
|--|---|---|
| <p>① 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>② 傷害の防止について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> | <p>① 傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>② 傷害の防止について、学習したこと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> | <p>① 交通事故や自然災害などによって傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>② 交通事故、自然災害による傷害の防止について理解したこと、応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>③ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害のよっても生じることについて書き出したりしている。</p> <p>④ 自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて書き出している。</p> <p>⑤ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止できることについて言ったり、書き出したりしている。</p> <p>⑥ 応急手当は、心肺蘇生法等があることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> |

6 単元の指導と評価の計画（傷害の防止）

| 時 | 学習活動  | 観点 |   |   | 評価基準及び方法   |
|---|---|----|---|---|--|
|   |   | 関  | 思 | 知 |  |
| 1 | <p>〔傷害の原因と防止〕<br/>交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解する。</p>                                    | ②  |   | ① | <p>〈関意態－②〉<br/>・中学生で多い傷害が起こる原因について、資料を見ながら自らの課題として受け止めようとしている。（観察）<br/>〈知・理－①〉<br/>・傷害は人的要因、環境要因等が関わって発生することを理解する。実際に危険が起きそうな場面からどのように相互が関わり、傷害が起きる可能性があるのか予想し、危険を回避するために必要なことを書き出している。（観察・ワークシート）</p> |
| 2 | <p>〔交通事故の現状と原因〕<br/>中学生の交通事故の特徴について、教科書等の資料や自分たちの生活から調べる。交通事故による傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解する。</p> | ①  |   | ② | <p>〈関意態－①〉<br/>・中学生の交通事故の事例や資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの活動に意欲的に取り組むことができる。（観察）<br/>〈知・理－②〉<br/>・交通事故は、人的、環境、車両要因が関わり合って起こることを理解し、実際の場面からどのような危険性があるのか予想し、危険を回避するための行動を書き出している。（観察・ワークシート）</p>            |

|             |   |   |   |             |  |
|-------------|---|---|---|-------------|--|
| 3           | <p>〔交通事故の防止〕</p> <p>交通事故を防止するために、人的要因と環境要因、車両要因それぞれの対策について考える。実際の場面から危険予測と危険回避について考える。交通事故を防ぐために、様々な交通環境を整えることの重要性を理解する。</p>          |   | ① |             | <p>〈思・判－①〉</p> <p>・交通事故を防止するための課題や解決方法を考えて見付け、それらを説明している。<br/>(観察・ワークシート)</p>  |
| 4           | <p>〔犯罪被害の防止〕</p> <p>犯罪被害の発生件数のグラフや起こりやすい場所等の視覚資料から犯罪被害者、加害者にならないためにどのように行動するのか考える。また、防犯の取り組みを知り、防犯対策のため各機関が連携しながら取り組んでいることを理解する。</p>  |   | ① |             | <p>〈思・判－①〉</p> <p>・犯罪被害がどのようにして起こるのか考え、犯罪を防ぐためにどうすればいいのか考え説明している。(観察・ワークシート)</p>   |
| 5<br>(本時)   | <p>〔自然災害に備えて・安全な行動〕</p> <p>自然災害による被害は二次災害によって生じることがあることを理解する。自然災害から身を守るための行動の一つとして、素早く避難することの大切さを考え、そのために日頃から災害に備えておくことの重要性を理解する。</p> |   |   | ③           | <p>〈知・理－③〉</p> <p>・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によって生じることがあることを理解し、災害による傷害を防止するために素早く安全に行動するためにどのようなことに備えるといいのか、考えたことを書き出している。(観察・ワークシート)</p>   |
| 6           | <p>〔自然災害に備えて・日頃からの備え〕</p> <p>自然災害への備え、安全な避難について自分の考えを持ち、日頃の生活から防災意識を持って生活することの大切さを理解する。</p>   |   |   | ④           | <p>〈知・理－④〉</p> <p>・自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて理解し、日頃からどのようにして備えていくのか、考えたことを書き出している。(観察・ワークシート)</p>   |
| 7<br>・<br>8 | <p>〔応急手当の意義と基本〕</p> <p>応急手当には心肺蘇生法等があることを理解し、方法を知り、実践することで傷害の悪化を防止できることを理解する。<br/>*消防署の方々をGTとして招き、心肺蘇生法講習会やケガをした時の処置について指導していただく。</p> | ② |   | ⑤<br>・<br>⑥ | <p>〈関意態－②〉</p> <p>・応急手当、心肺蘇生法等の実技に積極的に参加し、疑問に思ったこと等を尋ねる等、意欲的に活動することができる。(観察)</p> <p>〈知・理－⑤〉</p> <p>・応急手当や心肺蘇生法の行い方を理解し、適切に行うことで傷害の悪化を防ぐことができること理解し、手当を行う場合のポイント等を書いている。(観察・ワークシート)</p> <p>〈知・理－⑥〉</p> <p>応急手当は、心肺蘇生法等があることについて、言ったり、書き出したりしている。(観察・ワークシート)</p> |
| 9           | <p>〔傷の手当〕</p> <p>自分の身近に起こる可能性のある擦り傷や打撲等の傷の手当の方法を理解し、自分の身の回りで傷害等を伴うような事故等が発生した場合に適切に行動する。</p>  |   | ② |             | <p>〈思・判－②〉</p> <p>・傷の手当や事故等への適切な手当や行動について理解し、実際事故等が発生した場合に取るべき行動について説明することができる。<br/>(観察・ワークシート)</p>  |

7 本時の学習

(1) 目標

災害時、素早く安全に避難することで傷害を防止できることを理解する。

(2) 評価規準 (B)

素早く安全に行動するために必要な備えについて考えている。

(3) 展開 (まつしまカード…ま：まず準備、つ：つかもうめあて、し：しっかり考動、ま：まとめ)

| 過程          | 学習活動  | 指導上の留意点・評価  | 備考   |
|-------------|---|---|--|
| つかむ<br>10分  | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ま</div><br>1 腹式呼吸でリラックス。(心のケア)<br><br>2 授業の流れを確認。<br><br>3 危険予想と身の守り方。<br>命を落とす人やケガをする人がなぜ多いのか考える。<br><br>4 本時のめあてを確認する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の場面でもできる簡単なリラックスする方法に取り組む。教師が前でやって見せ、やり方を理解できるようにする。</li> <li>授業の流れを示し、見通しを持って取り組めるようにする。</li> <li>生徒の生活場面の写真を準備し、どのような危険があるのか考え、災害が発生した場合には安全に身を守ることができるようにする。</li> <li>実際の災害の様子を示し、命を落とす原因一つに避難の遅れがあるという点に気付かせる。</li> <li>めあてを板書し目的意識を持たせる。</li> </ul> | 松島カード<br>PC<br>テレビ<br>ホワイトボード<br>マーカー<br>生活の場所写真<br>災害視覚資料 |
|             | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">つ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">めあて：命を守るために必要な行動について考えよう。</div>  |   | ワークシート   |
| もとめる<br>10分 | 5 地震発生時にどのような二次災害が起きるのか知る。<br>① 二次災害について知る。<br>② 二次災害について体験する。(津波の速さ、高さ、威力)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実際の地震発生後の視覚資料を準備し、どのような二次災害が発生したのか考えることができるようにする。</li> <li>津波を模擬体験することで速やかに避難することの重要性を考えることができるようにする。</li> <li>多くの命が奪われたことを話し、真剣に考えることができるようにする。</li> </ul>  | 視覚資料<br>ビニールシート<br>テープ<br>時計                               |
| ふかめる<br>25分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">し</div><br>6 避難警戒レベルについて理解する。<br><br>7 家庭で過ごしている時、落ち着いて、素早く安全に行動するために準備しておかなければならないことを考える。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>避難警戒レベルを示し、情報を得て迅速に避難することの大切さについて考えことができるようにする。</li> <li>まずは自分で考え、話し合い活動に意見を持って参加できるようにする。</li> <li>班で話し合い、日頃からの備えについて意見を共有できるようにする。</li> </ul>  | 避難警戒レベル・避難所一覧<br>ワークシート<br>ホワイトボード<br>マーカー                 |
| まとめる<br>5分  | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ま</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">災害時、素早く安全に行動することで傷害を防止することができる。</div><br>8 東日本大震災発生時の率先避難者となり、多くの地域の方々の命を救った中学生の行動を知る。<br>・「津波てんでんこ」<br><br>9 心のケア | <ul style="list-style-type: none"> <li>率先避難者となって、多くの地域の方々の命を救った中学生のことを紹介し、素早く安全に避難することの大切さを考えることができるようにする。</li> <li>活動を振り返り、生徒の学習を賞賛する。</li> </ul>  | 釜石東中学校資料   |

